

## 第4回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 議事概要

日 時：令和2年11月13日（金）15：00～16：50

会 場：本庁舎第4委員会室

出席委員：涌井座長 遠藤副座長 古積委員 今野委員

佐藤（修）委員 佐藤（重）委員 佐藤（美）委員 庄子委員

深松委員 本郷委員 舛谷委員 渡部委員（計12名）

オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建政部 柳原都市調整官

欠席委員：内海委員 工藤委員（計2名）

事務局：建設局次長 百年の杜推進部長 百年の杜推進課長

同課全国都市緑化フェア推進担当課長 公園課長 同課公園整備担当課長

河川課長（計7名）

### 1：開会

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

－開会－

－新型コロナウイルス感染予防対策徹底の確認－

－配布資料の確認－

### 2：議事

#### ○涌井座長

－事務局へ定足数確認依頼－

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

－定足数を超過している旨報告－

#### ○涌井座長

－会議を公開とすることの確認（委員一同了承）、議事概要の確認を古積委員へ依頼（古積委員了承）－

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

－「資料1-1 全国都市緑化仙台フェア基本構想中間案に係るパブリックコメントの実施結果について」、「資料1-2 全国都市緑化仙台フェア基本構想中間案に対するご意見と本市の考え方」を説明－

## ○事務局

- －「資料 2－1 全国都市緑化仙台フェア基本構想（最終案）」、「資料 2－2 全国都市緑化仙台フェア基本構想（最終案 概要版）」、「参考資料 1 緑化フェア来場者の属性及び本市の観光客について」を説明－

## ○涌井座長

- ・参考資料 1 をふまえて基本構想に反映した内容はあるか。

## ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・基本構想には、子どもや家族連れを想定した内容を記載しているところであるが、近年の開催自治体における来場者属性は性別では女性が 7 割、年代では 50 代以上が 6～7 割となっているため、この結果からも 50 代女性以外の層にもフェアへ来てもらうことの必要性を感じたため、事務局の持つ認識ということで参考資料として提出した。
- ・現時点では具体的に基本構想に反映しているわけではない。

## ○涌井座長

- ・重要な視点だと思う。仙台はこれまでと違う緑化フェアを目指す。目標や課題として基本構想に掲載するとよい。

## ○深松委員

- ・アメリカのあるアンケートでは、コロナ禍終息後に訪れたい国の 1 位が日本であり、その目的は文化、歴史、自然であった。これをふまえて仙台を考えたとき、仙台駅から仙台城址へズドンと繋がる青葉通があるが、伊達の雰囲気は全くない。例えば青葉通に伊達通という名前を付けたりするのもよいと思う。せっかく立派な青葉通があるため、色々なことができる可能性がある。

## ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・仙台駅を出てすぐの空間、そこからフェア会場へと繋がる青葉通については修景が必要と思っている。メイン会場の追廻地区は歴史性のある場所でもあり、これについても関係する部署と連携しながら検討したい。

## ○建設局次長

- ・以前、仙台市の景観部局がまちかど博物館という事業を実施した。これは、銀行のショーウィンドウ、デパートの 1 階、床屋の 1 階等において昔のまちの様子を展示し、それを見ながら仙台駅から青葉通を抜けて青葉山公園の方へ向かっていくというものである。このようにソフトで繋ぐ方法もある。

#### ○涌井座長

- ・菊人形やツツジ人形など花人形が昔からある。例えば青葉山の入口に伊達政宗の三日月の兜を花人形でつくるのもよい。江戸時代から庶民に楽しまれてきたものであり、技術を伝承する意義もある。ドイツのマイナウ島では動物のトピアリを見ることができるが、日本の花人形は独特なものであるため、海外からも喜ばれると思う。

#### ○本郷委員

- ・参考資料 1 をみると、よこはまフェアへの来場者の約半数が 60 代以上である。今の 60 代以上は健康であるが、長い距離を歩くのは大変だと思われるし、移動がスムーズでないといけない印象を与えることもある。メイン会場までの移動は公共交通機関があるため問題ないと思うが、追廻地区と西公園南側地区の間で何か移動手段があるとよいと思う。例えば、る一ふる仙台を活用することが考えられる。

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・追廻地区と西公園南側地区の距離は近いが中には移動に苦勞する人もいることも想定される。また、両地区の間には横断歩道もある。それについては課題であると考えている。
- ・る一ふる仙台は追廻地区から仙台城址へ向かう一方通行である。追廻地区から仙台駅に戻る場合にかかなりの遠回りとなるため、その点も考慮する必要がある。

#### ○渡部委員

- ・国土交通大臣の同意に基準はあるか。

#### ○柳原調整官

- ・同意にあたっての明確な基準が示されているものではないが、自治体の検討内容を尊重して同意するという手続きである。

#### ○渡部委員

- ・参考資料 1 において過去の緑化フェアにおける来場者のほとんどが女性であるとのことであったが、男性は女性ほど花に興味を持たないからかもしれない。会場を目的地として誘導する形もあるが、会場に到達しなくても知らず知らずのうちに色々なものを見ながら足を進めてしまうようなオープンなエリアの会場とすることが大事だと思う。例えば街路樹の昔の姿や育った環境を歩きながら実際に見ることで、みどりの豊かさやストックを実感できると思う。
- ・レガシーについては、フェアでよかったものが結果的にレガシーになる場合と、フェアを契機に創り出そうとしてレガシーになる場合があると思う。後者について基本構想

に明確な記載がないため補足が必要かもしれない。

#### ○庄子委員

- ・基本方針の冒頭にあるSDGs達成のため、フェアでは次世代の担い手を育み、みどりを未来に繋げることを目指す必要があると思う。
- ・基本方針「3. 次世代の担い手を育むフェア」にある「自然との触れ合いや環境学習」は、親しみながら学ぶという大事なことだと思う。
- ・子どもが行きたいと思うより、親が連れていきたいと思うことの方が実際の来場に繋がる。子どもを連れて行って遊ばせるだけでなく、学ばせる機会にもなることが、親にとって大事だと思う。
- ・協働推進計画に「種まき、花植えなど、子どもをはじめとした市民参加による会場づくり」とあるが、「みどりの大切さを理解する市民参加の会場づくり」を事業として展開できればよいと思う。
- ・催事計画に「自然やみどりの楽しみ方を学ぶことができるワークショップ」とあるが、「大切さも学ぶ」という内容を加えるとよいと思う。

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・子どもを連れていく親に訴えかける内容も検討する。
- ・家族連れでフェアへ来ることで、まちが賑わい、どこかへ寄ったり買い物をしたり波及効果も期待できる。

#### ○佐藤（美）委員

- ・基本理念の3つ目にある「復興からその先へ、みどりを未来に繋げる」に関する意見が他に比べて少ない。これは歴史から学ぶのとは異なり、今経験していることを未来へ伝えることである。知識ではなく体験として何かを得て、周りの人に伝えたり自分の将来に影響を与えたりする体験型プログラムがあるとよい。
- ・参考資料1において、本会場以外への来場者情報を収集できたかどうか気になった。来場者情報の収集方法や効果の評価方法について今後検討する必要があると思う。

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・フェア開催時には震災から12年経過しており、震災を知らない子どもが多くなる。震災の爪痕が見えなくなっている中で何を伝えるべきか重要であり、昔との対比で見せる必要もあると思う。震災前、震災直後、復興した現在までの一連の流れを見せるプログラムや、みどりの大切さを伝えるプログラムを小学校と連携して行うことを考えている。
- ・参考資料1のデータは、他フェアにて行ったアンケート結果だが、アンケートを回答し

ただ人の属性の集計なのか、複数で来場した場合には一緒に来場した家族の属性も含めて集計しているのかなどの詳細は、把握していない。効果検証のためアンケートは重要であるため、そのような点にも考慮して今後方法について検討する。

#### ○佐藤（修）委員

- ・パブリックコメントにおいて広瀬川を利活用する意見があるが、基本構想の中で広瀬川との関わりを強くイメージできた方がよいと思う。フェア終了後も広瀬川と戯れたり、場合によっては飛び石で川を渡ったりすることができると思う。
- ・東部エリアへは荒井駅からバスの本数が少なく移動手段に課題がある。今の内容では、東部エリアへどのようにしたら来てもらえるかが読めない。実際に何度も東部エリアへ行っているため難しさを実感している。
- ・P17に植樹プログラムとあるが、既に植樹は終了している。厳密に言うと今後は植樹ではなく補植となるが、それを植樹と読み込んでもよいと思う。

#### ○事務局（建設局次長）

- ・広瀬川を会場とするにあたり、当然、親水について考える必要があると思う。安全第一の中で実施可能な内容やフェア後残せるものなどについて河川管理者と協議をしていきたい。今後、西公園南側地区や追廻地区から河川敷へのアプローチ方法、水に触れることができるよう流れから切り離れたワンドのような場所などについて検討する必要があると考えている。
- ・交通輸送計画において「東部エリアにおいては、会場ごとの条件・利用想定に応じた交通輸送計画を検討します」とあるが、シャトルバスを動かすとすると経費がかかってくる。東部での利用人数との関係もふまえて他の交通手段についても基本計画で検討する。
- ・植樹については、海岸公園の中にもまだ植栽可能な場所もある。植樹、育樹を子どもに体験してもらいたいと考えている。

#### ○佐藤（重）委員

- ・以前、中国で花博が行われたとき、一部の種子が買い占められ輸入できなくなったことがある。基本構想では調達期間や品種等の記載がないが、種の調達、育苗、出荷という流れをふまえると1年以上前から準備をする必要がある。その点に留意してほしい。

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・基本構想では図面に花壇の位置が記載されているだけである。今後、基本計画において面積やテーマ等具体的なことを決め、種類や数量を概算する。その段階で準備に着手し、中には試験的に栽培することもあるかもしれない。実施計画へ進むまでには詳細を決めることになると思う。

### ○今野委員

- ・私に関わっている仙台オクトーバーフェストでは、毎年約 5 万人の来場者がいる中で若者が少ないことが課題である。この課題を解決するためインターンシップを行い、広告やプロモーションのあり方も含めて学生に考えてもらったところ、扱うメディアや発信時の言葉も異なっており、発信の方法に若者の視点を入れ込むことも大事だと感じた。基本計画において、フェアをつくる過程に若者をどう巻き込むかという視点も入れて検討するとよいと思う。大人がつくったコンテンツに若者を呼び込むというより、自分たちのフェアと思う若者を増やす視点を持つとよいと思う。今の大学生は地域の魅力発信にとっても関心を持っていると感じる。

### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・広報に使うメディアも大事だが、訴え方や見せ方、ニュアンスは世代により全く異なるため、若者に関わってもらうことは必要だと思う。追廻地区は大学や高校に非常に近いため、入場無料が基本であれば空き時間や学校帰りにふらっと寄ることができる場所だと思う。学生がプロセスに関わるような手法を今後考えていきたい。

### ○古積委員

- ・追廻地区と西公園南側地区の間は高低差がある。来場者には高齢者もいると思うため、既存のるーぷる仙台の活用はよい考えだと思う。
- ・以前、るーぷる仙台に乗ったとき、運転者が歴史と文化の説明をしながら走行した。それがとても面白く、ときには笑いが起きた。緑化フェアの際もこのようなことができるとうい。
- ・完成された庭園を見てもらうのではなく、作庭中の状況も見てもらえるとよい。庭園の伝統文化や技術を知らない人に興味を持ってもらったり、携わる職人や技術者も人に見られることで緊張感を持って仕事をしたりできると思う。
- ・一般の人が高所作業者に乗って上から街路樹を見ることができるとよい。普段とは違う視点で街路樹を見ることで、自分の住むまちの新たな認識につながると思う。
- ・広瀬川の大橋付近に、水の流れて削られた自然の石がある。橋をかけるのは難しいと思われるため、その場所を利用した体験や水遊びができるとよい。
- ・これまでの緑化フェアでは女性の来場者が多いことを知り、仙台では男性の来場者を増やすことを考えたい。例えば、親子でのツリークライミングや、県内産の間伐材木を使った丸太切競争などがある。お父さんが頑張っている姿を見せることになり、身体を動かすため健康によい。花とみどりを見せるだけでなく、動きのあるプログラムも面白いと思う。

### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・作庭状況を見せることについては、過程を見ることの面白さがあると思う。変化を見るため2回来場することも想定される。
- ・高所作業車については、いかにも男の子が好きそうなため家族連れで来てもらうのにとってもよい内容だと思う。
- ・ツリーライミングについても、小さい子どもが簡単、安全に楽しめる内容とのことで、普段下から見上げている木を違う視点で見ることができるという意味でも面白い。西公園には大きな木が多いため、それを活かせると思う。

### ○舩谷委員

- ・広瀬川の利用には水辺へのアクセスが大事であるが、仙台は河岸段丘にまちが形成されているためアクセス可能な場所が部分的であり、しかも点々と離れていることが課題だと思っている。
- ・緑化フェアに限らず普段使いで河川敷の散策ができたり、対岸に渡ったりできるとよいと思う。緑化フェアでは、楽しく、安全で、河川管理上支障がなければ協議に応じたい。
- ・一方で河川には自由使用の原則があり、自己責任において水に入って渡ってもよいということになる。体力に自信がある人はそのような楽しみ方ができるが、万人が安全な状態にするのは難しい。そこが課題であると思っている。広瀬川を利活用するアイデアとして、例えば、左右岸にロープを渡し、川の流れを動力に往復する渡し船を考えた。ゴムボートなら水量がなくても渡ることが可能であり、子どもも楽しめる。
- ・追廻地区では鳥獣対策にも留意する必要があると思う。近頃、河川を移動経路にして作物を荒らすイノシシの対策について要望がある。熊の目撃情報も多い。

### ○遠藤副座長

- ・緑化フェアは新緑の最も街路樹がきれいな季節に開催され、とてもタイミングがよい。仙台の街路樹は他都市から非常に評価されるが、これは市民の協力はもちろん事業者の技術によるものである。緑化フェアを機会に全国へ技術力を発信できるとよい。
- ・街路樹の景観は市民の誇りである一方で、仙台駅からフェア会場をつなぐ青葉通には街路樹があるにも関わらず何もないという見方もある。これは街路樹が街並みと溶け込んでしまっ感じられないからかもしれない。そのため市民や沿道の人が街路樹を活用することを考える必要があると思う。フェアを契機に街路樹や景観を活用するという方向性へ進むとよい。既に宮城野通では楽天のベンチを樹木の付近に設置しているが、緑化フェアは、そのようなハードとともに緑を活用するよい機会であると思う。

### ○涌井座長

- ・計画にあたり重要なことは利用する側の目線である。今日の委員の意見はそのようなこ

とであったと思う。

- これまでの緑化フェアは主に展示と鑑賞であり、眺めることに力点が置かれていた。これからの緑化フェアは滞留と参加になるべきで、来場者が足を止めて参加してみることが大事な観点だと思う。
- 先日オープンした名古屋の久屋大通北地区では売り上げが約2倍となった。先日、三菱地所が車道に芝生を張った丸の内中通では売り上げが2~3割増加した。既に仙台には先人が築いた立派な緑がある。国土交通省都市局がまとめたポストコロナの時代の都市づくりでは、楽しく歩ける街づくりで皆が参加できるコミュニティが良質にされることが非常に重要であり、その主軸は緑であるという旨がまとめられている。仙台には立派なケヤキ並木もあるし、仙台にしかできないことがあると思う。
- 仙台ではサラリーマンをどれだけ味方につけられるかがポイントだと思う。例えば昼食時に珈琲を飲んだりパソコンを持ち出したりするような仕掛けがあるとよい。久屋大通北地区ではテントや寝椅子を置いており、サラリーマンはそこで仕事をしている。その方向へ進むと、緑や花はただ飾って眺める以上の価値が生まれてくる。
- 仙台の伝統、伊達文化は避けて通ることはできない。むしろ強調することが大事である。その意味では作庭過程を見せることは重要だと思う。作庭にあたっては機械を使用せず、できれば二又や三又、てこ、神楽棧を使ってほしい。昔の人がやったように、クレーン車を使わず重たい石を据える様子を見せてほしい。クレーンしか使ったことがない若い職人にとってもよい機会となる。
- ユニバーサルなことが大事である。日比谷公園などで車いすの人もツリークライミングに参加し、約30mの木に上がるということもやっている。信州フェアでは重たい荷物を持ち歩くことのないよう、ロッカールームや荷物を預かる仕組みづくりをしっかりと行なっていた。空港のカートのように年配者や足の不自由な人が乗る仕掛けがあるとよい。
- 東北をあげて取り組んでいる伝承ルートについても仙台がぜひやってほしい。緑化フェア開催時には、百カ所以上の震災にまつわる慰霊碑や公園ができていると思う。それらを訪ねる起点として仙台が名乗りを上げることに意味がある。日本では地震がいつ起こるかわからない中で、復旧、復興を体験し、そして新たな時代に向かっている仙台の姿は、今後地震が起こるかもしれない地域にとって大きな参考になると思う。
- 石巻では震災で流されてきた木材を使って「がんばろう！石巻」と書いた十数mの看板をつくっており、皆が大事にしている。また陸前高田では、津波が来たことを後世に伝えるため津波到達点に5m間隔で桜の苗木を植えて桜ラインをつくる活動を行っている。このようなことから、仙台でも次の世代にどう伝えるかということは重要だと思う。悲劇を乗り越えた先に花や緑で新たな時代を切り拓くという気概をぜひ見せてほしい。
- 鴨川には飛び石があり、京都の人たちは渡るのを楽しんでいる。ただ仙台とは事情が異なる。河床勾配や増水期、流勢等の条件により可能か否かが決まる。
- 市民が河川に感心を持ち、大切さを認識して初めて果たされる河川の機能は多い。その



ためには低水敷、高水敷を市民が利活用する機会をつくることを考えるとよい。これは河川行政上もメリットがあると思う。

#### ○柳原調整官

- ・懇談会での意見をしっかり受け止め、大臣同意に至れるよう仙台市と調整したい。
- ・グリーンインフラという言葉が基本構想にあるが、既に仙台市には素晴らしいグリーンインフラを有する先進都市だと思っている。伊達政宗から始まった杜の都が、戦災復興、震災復興を経て魅力的で安全なまちになってきたことを、地域と共有し、国内外に発信する緑化フェアになればよいと思う。
- ・大臣同意後は、会場となる都市公園の整備への支援や、都市緑化祭という皇室行事での連携、協力をしていきたい。

#### ○涌井座長

－懇談会の意見をふまえて事務局が修正し、その確認を座長に一任することの確認（委員一同了承）－

#### ○事務局

－「資料3-1 今後の取り組みについて（スケジュール）」、「資料3-2 今後の取り組みについて（基本計画・実施計画）」について説明－

#### ○事務局（建設局次長）

－挨拶－

#### **3：閉会**

#### ○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

－閉会－